

## 日本学術会議公開シンポジウム

### 「縮退時代において、20年後のまち・社会を考える ～宇宙×都市×遺伝子×生態～」 報告

**日時：**2022年3月1日（火）13:00-17:00

**場所：**Zoom ウェビナー

**主催：**日本学術会議若手アカデミー 越境する若手科学者分科会、土木工学・建築学委員会  
感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市のあり方分科会、土木工学・建築学委員会気候変動と国  
土分科会、土木工学・建築学委員会都市・地域デザインの多様なアプローチ分科会、環境学  
委員会・統合生物学委員会合同自然環境分科会、統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同  
生態科学分科会、農学委員会農業生産環境工学分科会

**開催趣旨：**少子高齢化による地域社会の縮退、激甚化・頻発化する災害、地球環境問題の顕  
在化など課題が輻輳化する中で、既存の発想にとらわれない科学分野間の融合により、人間  
と自然が調和する新たな社会像が求められている。本シンポジウムでは、宇宙、生態、遺伝  
子、都市の各領域で、地域に根ざした諸問題の解決に取り組む産官学の若手の実践から、縮  
退時代における20年後のまち・社会と実現に向けた分野間の連携・融合を議論する。

#### 運営メンバー：

- ・小野 悠（日本学術会議連携会員、若手アカデミー幹事、豊橋技術科学大学大学院工学研  
究科准教授）
- ・石川 麻乃（日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、東京大学大学院新領域創成科  
学研究科准教授）
- ・遠藤 良輔（日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、大阪府立大学大学院生命環境  
科学研究科講師）
- ・田井 明（日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、九州大学大学院工学研究院環境  
社会部門准教授）
- ・岩崎 渉（日本学術会議連携会員、若手アカデミー代表、東京大学大学院新領域創成科学  
研究科教授）

#### 講演者：

- ・小正 瑞季（一般社団法人 SPACE FOODSPHERE 代表理事、リアルテックホールディン  
グス株式会社 グロースマネージャー）
- ・東樹 宏和（京都大学生態学研究センター准教授、サンリット・シードリングス株式会社  
創業者取締役）
- ・内井 喜美子（大阪大谷大学薬学部助教）
- ・朝田 将（国土交通省水管理・国土保全局河川計画課河川計画調整室長）
- ・三牧 浩也（柏の葉アーバンデザインセンター 副センター長）
- ・小野 悠（再掲）
- ・岡 祐輔（福岡県糸島市企画部経営戦略課主任主査）

#### パネリスト：

講演者7名

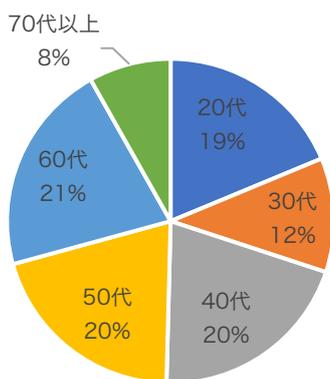
- ・岩崎 渉（再掲）

- ・北島 薫（日本学術会議第二部会員、京都大学農学研究科教授）
- ・後藤 英司（日本学術会議連携会員、千葉大学大学院園芸学研究科教授）
- ・佐々木 葉（日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院教授）

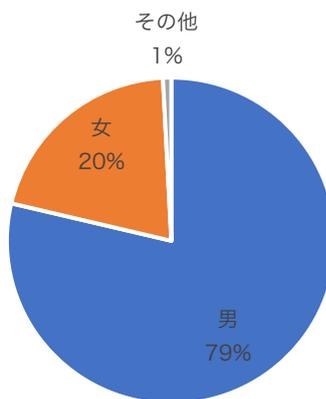
参加者数：一般 315 名（事前登録 448 名、参加率 70%）、登壇 14 名

参加者内訳（アンケート 123 件より）：

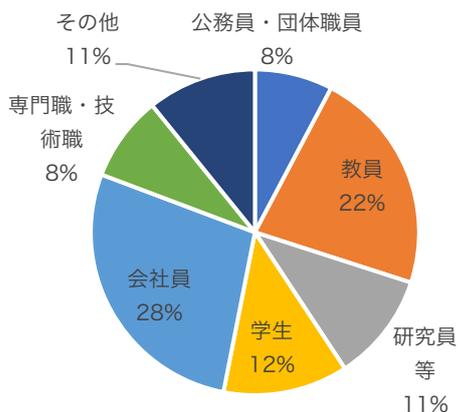
年齢



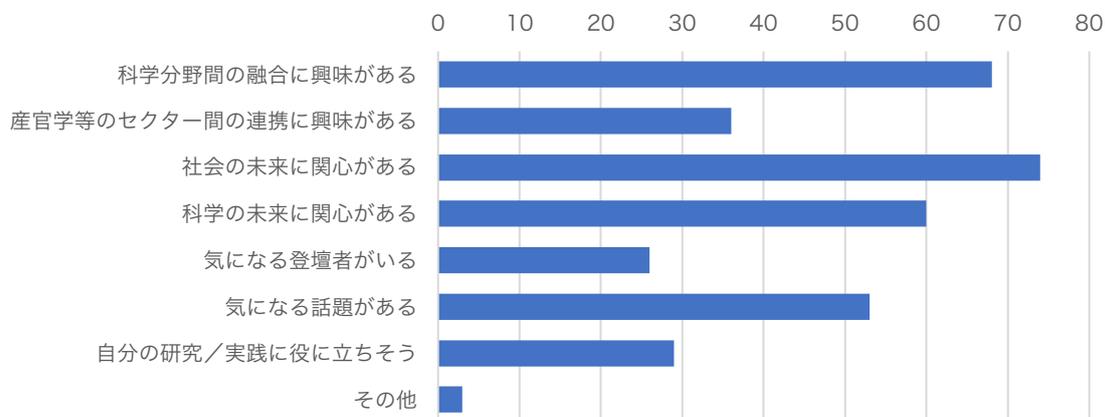
性別



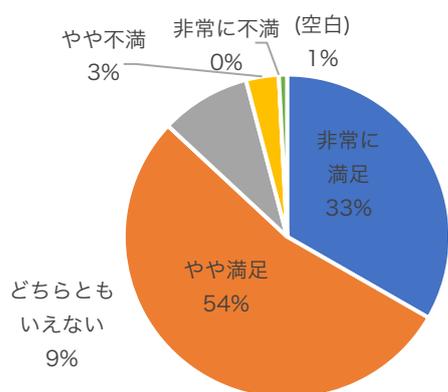
職種



参加者の参加理由（アンケート 123 件より）：



参加者の満足度（アンケート 123 件より）：



### シンポジウムでの議論とアンケート結果から考える分科会の今後の活動：

シンポジウムと参加者アンケートを踏まえ、3月11日（金）12:00-13:00に、本シンポジウムの運営メンバー（前述）で今後の活動について議論し、以下の方向性を見出した。今後はこれらを踏まえて、具体的な活動を検討する。

#### （1）シンポジウムを踏まえた具体的な研究、調査、社会実装の取り組み

パネルディスカッションでの議論や参加者アンケートから、今後の都市、社会デザインを考えるための具体的な研究、調査、社会実装のアイデアが上がった。そこで、具体的なフィールドを設定し、これらの研究、調査、社会実装を小スケールで取り組む。

研究、調査、社会実装の具体例：

- ・市民と行う環境 DNA 解析、環境・治水モニタリング
- ・森林、水質、生態、農村社会を考慮した上流域の都市・社会デザイン
- ・霞堤、ダム、防災を考慮した下流域の都市・社会デザイン
- ・暗渠化された用水路の再生、水質、生態、まちづくりから考える農業用水路の利活用
- ・小規模循環社会に向けて、有機性廃棄物から得た肥料や排熱の都市緑地への利用

フィールドの具体例：

- ・千葉県柏市柏の葉
- ・愛知県豊川流域

#### （2）継続した議論の場作り、社会への発信

パネルディスカッションでの議論や参加者アンケートから、今後もこのような研究領域や産官学の枠組みを超えた議論の場や、それらを踏まえた社会への発信を求める声が多く見られた。そこで、新たな視点を加えた継続的な議論の場づくりや、よりテーマを深掘りしたシンポジウムの企画、学会間のオープンな学术交流、省庁との交流などを進める。

#### （3）教育、科学政策への取り組み

パネルディスカッションでの議論や参加者アンケートから、研究領域や専門分野を繋げることができる人材育成の必要性が指摘された。そこで、中高生など、より若い年齢層を対象にして、街、都市づくりを考える企画を検討する。